優秀賞

スポーツや レクリエーションを通じ 体力と就労意欲を向上

株式会社かんでんエルハート

企業プロフィール

株式会社かんでんエルハート
代表者：代表取締役　中井志郎
〒559-0023
大阪府大阪市住之江区泉1-1-110-58
TEL06-6686-6874
FAX06-6684-2132

◆業種および主な事業内容

デザイン印刷・製本、電話受付サービス、データ入力・編集加工などの処理、園芸、ノベルティ商品などの商事、社内文書の発・受信サービス、メールサービス、産業マッサージ・セルフケア講習会など

◆従業員数

136名（平成18年2月1日現在）うち障害者数94名
＜内訳＞
肢体不自由者22名（うち重度19名）、視覚障害者9名（うち重度9名）、聴覚障害者8名（うち重度7名）、内部障害者4名（うち重度4名）、知的障害者49名（うち重度7名、重複2名）、精神障害者2名

◆事業所の概要と障害者雇用の経緯

平成5年12月9日の障害者の日に会社設立。開業は平成7年4月より。就労の進んでいない知的障害者や重度身体障害者の雇用を一層促進するため、関西電力、大阪府、大阪市の共同出資による第三セクター方式で設立した特例子会社。肢体不自由者をはじめ、さまざまな障害者の雇用を図っている。

電気事業の職種枠を超えて多彩な職域を開拓し、障害者の可能性を最大限生かすようにしているのが特徴。障害者同士の交流の場でもあり、見学会や講習会の依頼を積極的に受け入れて、障害者理解・障害者雇用を伝える発信基地としての役割も担っている。開業以降の見学者は4万5,000人を超え、注目のほどがうかがえる。

電気事業の周辺事業を再構築し、多彩な職域を用意

健常者の割合を多くして きめ細かいサポートを実施

かんでんエルハートの設立以前からも、親会社である関西電力は障害者雇用の促進を図っていた。「電気」は、見えない・触れられない・貯蔵できない商品である。こうした商品を取り扱う業務の特性上、特に、重度障害者のために職務創出を行うことは難しいと予想された。しかし関西電力は「地域との共生、地球環境との共生」を経営理念としていることもあり、地域で重度障害者の雇用を促進し、障害者の自立と社会参加に寄与する会社の設立を計画。知的障害や重度の身体障害など、なかなか雇用の進まない障害者を積極的に雇用するため、かんでんエルハートの設立を決定するに至った。

障害者雇用の促進を狙う大阪府と大阪市の協力を得て、第三セクター方式の特例子会社としてスタートを切った。

当初の従業員数は43名で、うち障害者数は28名。そして創業5年で倍以上の104名、うち障害者数65名にまで急成長。その後も順調に障害者雇用を続け、創業10年目となる昨年には136人にまでなった。

障害者と健常者の割合は、設立以来約２：１で推移している。特例子会社の中でも健常者の割合が多いが、これは知的障害者にきめ細かいサポートを行うために必要な対応と考えているためだ。

できたばかりの
ビジネスアシストセンター。
広々とした空間を実現。

こちらの事業所では
肢体不自由者以外に
さまざまな障害の者が
仕事を行っている。

職域の拡大と新事業所の完成で トータル的なビジネスアシストを実現

業務内容は、本業である電気事業ではなく、周辺業務の再構築によって創出された業務である。具体的には、福利厚生に関する電話受付、郵便物の配布、社内文書の印刷のほかイベント用ノベルティグッズ・お中元やお歳暮の贈答品の企画から包装まで行う商事や、事務所を彩る花壇やプランターの花卉栽培・メンテナンスを行う園芸と、その職域も年々拡大しており、現在までに大きく分けて7種類の業務を行っている。

開業当初2年間は赤字決算であったが、平成9年には累積赤字も解消。以後、黒字経営が続いている。

平成17年1月には新設された関西電力本店ビルの18階にビジネスアシストセンターをオープン。住之江本社や旧関西電力ビルの各階に分かれていた業務窓口を統合し、オフィスワークをトータル的にアシストできるよう生まれ変わった。

今後、除外率（法定雇用障害者数の算定基礎となる常用労働者数の計算に当たって、全常用労働者数から除外される一定の割合を示した数値）が撤廃される可能性を考慮して、今後も積極的に障害者雇用を促進させる予定である。

問題点と対応策

1 肢体不自由者が働きやすい職場環境を整えなければならなかった。
>> フロア全体にユニバーサルデザインの考え方を盛り込んだ。

2 体力のない者や会社以外に所属する場を持たず社会的視野の狭い者が多かった。
>> スポーツ・レクリエーション活動を推進し、健康増進やコミュニケーション促進が図れた。
▶詳細は24Pでクローズアップ

3 個人の特性やスキルをうまく生かしたかった。
>> 職域を増やして業務の選択肢を広げた。

4 障害者の自立を促進したかった。
>> クラブ活動を主導させて独創性を高め、障害者同士の連携も促進した。

ここが聞きたい！ 積極的な社外活動による効果

中井志郎代表取締役

同じ目標を設定することで社内の士気も高める

スポーツやレクリエーション活動を推進した理由は、やはり体力のない従業員をなんとかしたいと思ったのがきっかけでした。障害者と一緒に過ごす機会がそれまでなかったものですから、最初のうちは手探り状態でしたね。近くの公園にいくことから始めたり……。

積極的に社外活動を推進した結果、従業員の印象がガラッと変わりました。引っ込み思案で大人しくて、根気が続かなかった人が、バリバリのキャリアウーマンになっていたり。たまにこちらがびっくりするくらい気も強くなりましたね（笑）。会社としてはきっかけを与えただけで、すでに自分たちで趣味を満喫していますが、雪山の急斜面を猛スピードで滑ったり、海外旅行に行ったり、ダイビングで海に潜ったりを自分たちでできるわけですから、大きな自信につながったのだろうと思います。

花見やクリスマス会などのイベントもたくさんあって、みんなでわいわいやって楽しんでいます。私もぬいぐるみを着て踊ったりしているんですよ。知的障害の方も多いですし、仕事だけではストレスがたまりますから。

仕事そのものはOJTで教えていくわけですが、士気を高めるといった人づくりは、みんなで同じ目標に向かって進むことが有効です。これは障害者だからというだけでなく、どこの企業でも同じことですね。昔は多くの会社でも行われていたことだと思います。社外活動の中では、仕事中では見られないような個性を発見することができて、仕事に生かせることも多いんですよ。

また仕事だけでなく、生活の質を高めることも重要です。企業人でもあり市民でもあるというバランスが大切で、彼ら・彼女らが人生を謳歌できる手伝いをできたなら幸いですね。

1 ユニバーサルデザインの考え方をフロア全体に取り込む

昨年に完成したばかりのビジネスアシストセンターでは、広々とした空間にバリアフリー設備やユニバーサルデザインが施され、最先端の作業空間となっている。

通路は車椅子でも余裕を持って通れるほどゆったりとした幅を確保。主要通路は行き違えるよう2m以上、進路変更が必要な場所は回転できるよう1.5m以上、その他でも1m以上の幅にしている。さらに空調機を床下に配置しており、特に冬場に寒暖の差が出にくいように配慮されている。

また、基本的に段差のない造りで、扉もすべて床にレールを造らない吊り戸を採用。効率よく収納できる電動式移動ラックも、利用しやすいようレールを床に埋める処理を施した。

ユニバーサルデザインの考えとしては、手に麻痺があったり握力のない人でも、真ん中の書類が取り出しやすい3枚引戸のキャビネットを採用したり、あらゆる機械の操作ボタンを車椅子使用者でも確認・操作しやすい場所に設置。演台や作業デスクも、用途に合わせて高さを昇降できる電動式になっている。

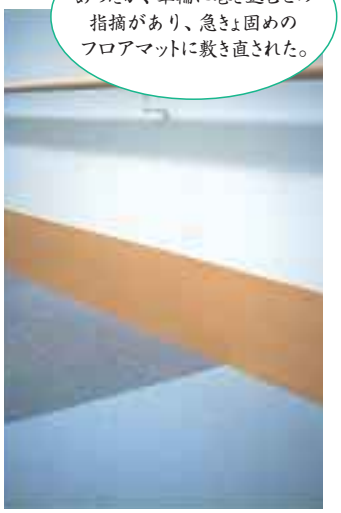
お金をかけて特注したというロッカーは、車椅子使用者が扱いやすいデザイン。正面を向いても前輪がぶつからないよう床下50cmまで空間を設け、ハンガーラックは電動で昇降するようになっている。

上司のところまで
すんなりと移動できるほどの
通路幅を確保。
空調も床に設置している。

なお、このオフィスでは肢体不自由者をはじめ、あらゆる障害者が作業を行っているため、車椅子使用時の利便性だけ追求すればよいわけではない。聴覚障害者のために印刷機の作業状況を知らせるパトライトを設置したり、視覚障害者のためには点字ブロックの代わりに前を通ると声で知らせるボイスサインを各所に取り付けている。このほか、障害者が働くための工夫は枚挙にいとまがない。

かんでんエルハートの場合、特例子会社として障害者雇用促進の象徴でもあることから、まさしく第一線の職場環境モデルといえそうな設備で充実している。

特注でつくった
というロッカー。
前輪がぶつからないよう
下側に空間を設け、
ハンガーは個別に
電動で昇降する。



もとは絨毯フロアで
あったが、車輪に巻き込むとの
指摘があり、急きょ固めの
フロアマットに敷き直された。

フロアの改造が可能で
あったことから、電動式
移動ラックのレールを
床下に配置。

トイレの使用状況が
職場にいながらわかる
ようにランプによる
表示盤を設けた。

クローズアップ

2 スポーツ・レクリエーション活動を推進し健康増進やコミュニケーション促進が図れた

◆体力のなさを感じて手探りの状態から活動を開始

かんでんエルハートが開業して間もなく、経営者サイドに懸念材料が持ち上がった。肢体不自由者には体力の弱い者が多く、終業時にはぐったりしていたことだった。また仕事がないときは自宅にこもり、趣味がなく、人間関係が希薄だったり社会的視野が狭かったりしているように感じられた。

このままでは業務に支障をきたすことが予想され、また肢体不自由者の生活の質の向上を図ることが困難になる。

そこで考えたのが、スポーツやレクリエーション活動の推進であった。

当初はどこまでできるか、どこまで付いてきてくれるかがわからなかったため、近くの公園で散策するレベルからスタートした。

徐々に肢体不自由者たちの可能性を感じ、より積極的な活動を促進していくようになる。もちろん本人たちからの戸惑いはあった。肢体不自由者でも楽しめるチェアスキーを誘ったが、当人にはまったくの想定外であり、できるできない以前のことのように感じられたという。しかしその楽しみを理解してからは、自ら積極的に参加するようになっていった。

◆体力向上、精神的強さも身に付け仕事や趣味に楽しみを見出す

こうしてこれまでに数多くの活動を行っている。スポーツでは車椅子バスケット、車椅子テニス、電動車椅子サッカー、チェアスキー、登山、スキューバダイビング、市民マラソン。レクリエーションでは隠し芸やコンサートを行う納涼祭、車椅子ダンス、チンチン電車を貸り切っての同期会など……。きっかけが与えられたことで、彼・彼女らは自分たちの可能性に気づき、同時にこれまで体験しなかったような楽しみを感じていった。

オーストラリア旅行での様子。写真右の山崎さんは、毎年海外に旅行しているという。

これらの活動を通じて体力も向上し、以前のように１日の業務でぐったりする者はいなくなった。またいくつかのレクリエーションでは親会社や旅行先のボランティアセンターなどからボランティアを募集してサポートをお願いするが、社外の人との付き合いで社会的接点を築き、社交性も高まった。また趣味や目標を見つけたことで精神的な強さも身に付け、ストレスへの耐性も養えた。

チェアスキーを楽しむ角倉さん。シーズン中は毎週のように山へ滑りに行き、現在はチェアスキー2級の腕前という。

楽器演奏などが行われた納涼祭。ひと夏の思い出を楽しんだ。

甲子園球場にて、ファンである阪神タイガースを応援に。おそろいの虎カラーアフロで観戦中。

3 選択肢を広げ適職を見つけるチャンスを与える

親会社の周辺事業を担っているかんでんエルハートは、さまざまな業務の開発を続けている。

開業当初、住之江ワークセンターで業務・園芸・印刷・商事を、中之島ワークセンターでメールサービス・ヘルスケアを行っていたが、平成12年には高槻フラワーセンターをオープンする。昨年には中之島ワークセンターがビジネスアシストセンターとなり、社内印刷や厚生サービスなどの内容が充実。情報の電子化などにより業務内容が拡充し、携わる職域は実に広い。

常に職域を広げようとしているのは、スポーツ・レクリエーション活動と同じく、個人の特性やスキルを生かすにはさまざまなチャンスに遭遇できる環境や、幅広い選択肢が必要だという考えがあるからだ。メールサービスではどうしてもうまくいかなかった知的障害者が、昨年導入した資源ごみの分別回収業務では打って変わったような働きぶりになった事例もある。

まだまだ実現まで程遠いが、野菜工場や通信販売など、可能性を模索していく方向である。

4 活動企画・運営クラブの幹事に任命し独創性を養成

現在ではさまざまなスポーツやレクリエーション活動を行っているが、きっかけ作りは主導したものの、実際のイベントの企画のほとんどは、社員組織「YIYI（わいわい）クラブ」が行っている。

このクラブの運営は、障害の有無に関係なく各所属から担当者を1名出して構成する幹事会で行われる。任期1～2年のうちにさまざまな体育活動・文化活動の企画・運営を担当している。

この幹事には、日常業務では比較的創造的部分の少ない職種を担当する従業員が当たるようにしており、クラブ活動によって独創性を発揮できるよう取り計らっている。

またこのクラブの存在により、自ら行動する姿勢が身につき、従業員間のコミュニケーションも盛んになって作業効率の向上などにもつながっている。

肢体不自由者からみた「働きやすい職場」とは

◆慰安旅行で知った海外旅行の楽しさ

山崎智津代さん

開業当時から働いていますが、新しい事業所はまったく凹凸のない造りで、非常に動きやすいですね。そして何より明るくて楽しい職場です。

私は四肢体幹麻痺の障害があって体重は27kgで握力はゼロ。当初は体力もなかったのですが、どうしても働きたくて周囲の反対を押し切って仕事を始めました。

会社の慰安旅行を経験して旅行の楽しさを学び、グアム、イタリア、中国、オーストラリアなどいろいろな国に行ってきました。

体力が付いたからか休むこともなくなり、仕事も楽しくなりました。ここにはいろいろな障害を抱えた人がいますが、みんなと一緒にこれからもがんばっていきたいと思います。

◆公私ともに楽しみを与えてくれた職場環境

角倉寛子さん

私は現在印刷業務を行っています。学ぶことが多く、これからも勉強を続けていきたいと思っていますし、それができる環境にあることが幸せだと思っています。

バリアフリーに関しては、重いドアがなかったり狭い通路がなかったりして、活動しやすいですね。環境に不満はありません。

またチェアスキーと出会ってからは、シーズン中は毎週のように雪山に行くようになりました。それまで雪を見たことがなくて感動でしたね。こんなに楽しい趣味を見つけるきっかけをつくってくれた会社に、とても感謝しています。